

木製防火雨戸（認定番号：EC-0256）の製作・施工チェックシート（三本溝用）

工事名称：	
建築主　：	記入日　：
建築場所：	登録番号　：
設計者　：	登録者氏名：
木製防火雨戸の設置箇所：	

木製防火雨戸の製作・施工チェックシートの使い方

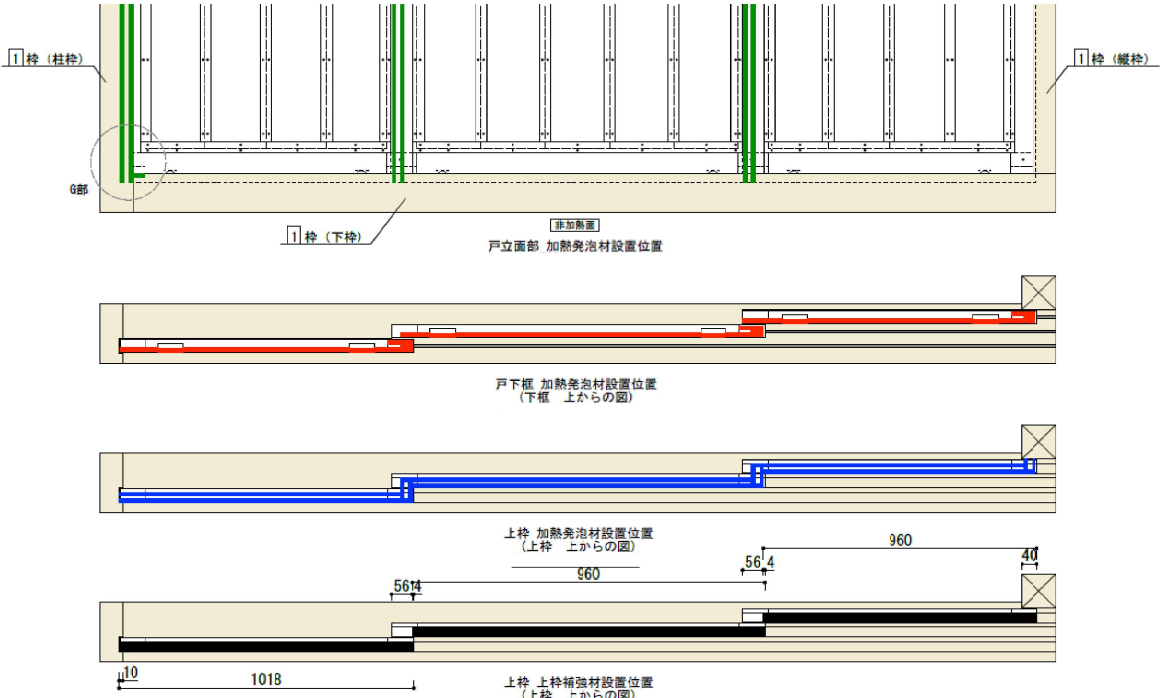
チェックシートの目的	このチェックシートは、木製防火雨戸の製作に当たり、大臣認定の仕様どおりに製作・施工が行われているか製作者自身でご確認いただくために、大臣認定書の別添に記載された仕様等をチェック用にまとめたものです。
製作者のみなさまへ	・木製防火雨戸の製作途中や完成時に、大臣認定の仕様どおりに製作・施工が行われているかご自身でチェックしてください。 ・カメラマークのある項目は、完成時に見えず、仕様が確認できない部分であるため、製作中に記録写真を撮っておいてください。 ・製作・施工が完了したら、このチェックシート、製作中記録写真、完成写真を事務局へ提出し、完了報告を行ってください。 ・建築確認の完了検査を受ける際には、チェックシートや製作中記録写真を用意し、仕様が確認できるようにしてください。
検査員のみなさまへ	完了検査時に木製防火雨戸の仕様を確認する際、このチェックシートを活用いただき、認定仕様に適合していることをご確認ください。なお、防火性能を確保するうえで特に重要な内容については、チェック内容を赤字にしています。

仕様、留付方法・間隔等を満たしていることを確認した場合に、□にチェック（レ）を入れる

	チェック内容	チェック
1 枠	枠を構成する材料は製材又は集成材か	☐
	枠の材料はスギ、ヒノキ、マツ、ベイトガ、スプルー스（所定の密度を満たす材）か 密度：0.38±0.08g/cm³以上（屋外で一般的に使用されるスギ材の密度（0.38g/cm³程度）以上の密度とすること）	☐
	枠のサイズは高さ2000mm以下×幅3030mm以下か 図1-1を参照	☐
	上枠、下枠、縦枠、柱枠の断面寸法は所定の寸法以上か 図1-2を参照	☐
	部材の接合に接着剤（ボンド）を使用していないか	☐
	縦枠と上下枠用の取付方法（ねじ、本数）は適切か 留付け材：木ねじ（Φ4.8mm以上×L120mm以上）　留付本数：3本以上／箇所	☐
	各枠と外壁の取付方法（ねじ、ピッチ）は適切か 留付け材：木ねじ（Φ5.3mm以上×L200mm以上）　留付間隔：上枠・縦枠 450mm以下、下枠 325mm以下	☐
	節や割れがある場合、パテで処理を行ったか	☐
	塗装材の種類は適切か 塗装剤の種類（いずれかー仕様）：なし／合成樹脂調合ペイント／クリヤラッカー／フタル酸樹脂エナメル／合成樹脂エマルジョンペイント／ウレタン樹脂ワニス／オイルステイン／木材保護塗料（べんがら、柿渋など）／なし	☐
	塗装材は塗りすぎていないか 50g/m²以下（有機固形分28g/m²以下） （塗装材の塗布量について、50g/m²以下であることがわかる資料又は写真を提出してください） （べんがら、柿渋、オスモは、塗布量50g/m²以下を満たしていれば、有機固形分28g/m²以内となります）	☐
3030以下 上枠 縦枠 柱枠 三本溝の場合 下枠 図1-1 枠の寸法 163以上 75以上 上枠 75以上 下枠 163以上 105以上 163以上 60以上 縦枠 90以上 柱枠 90以上 下枠 図1-2 各枠の断面寸法		

仕様、留付方法・間隔等を満たしていることを確認した場合に、□にチェック（レ）を入れる

	チェック内容	チェック
2 戸	戸を構成する材料は製材か	☐
	枠の材料はスギ、ヒノキ、マツ、ベイトガ、スプルー스（所定の密度を満たす材）か 密度：0.38±0.08g/cm³以上（屋外で一般的に使用されるスギ材の密度（0.38g/cm³程度）以上の密度とすること）	☐
	戸のサイズは高さ1863mm以下×幅1016mm以下か 図2-1を参照	☐
	縦框・横框・中框の見付け寸法及び見込み寸法は所定の寸法以上か 図2-1を参照（中框は、戸の高さが996.5mm以下の場合、設けなくてもよい）	☐
	鏡板は見付け寸法176mm以下×見込み寸法30mm以上か	☐
	目板・押縁は見付け寸法30mm以上×見込み6mm以上か	☐
	雇い実の断面寸法は20mm以上×10mm以上か （雇い実の寸法がわかる写真を1枚以上提出してください。写真2-1を参照）	☐
	鏡板同士の接合部、鏡板と框間の接合部に雇い実を入れているか （雇い実の施工時の写真を1枚以上提出してください。写真2-2を参照）	☐
	部材の接合に接着剤（ボンド）を使用していないか	☐
	框同士（縦框と横框、縦框と中框）の取付方法（ねじ、本数、くさび併用）は適切か 留付材：木ねじ（Φ3.0mm以上×L25mm以上）とくさび（木材、幅15mm×厚さ3～7mm）の併用 留付本数：横框－縦框、中框－縦框の取合い部に1個／箇所 押縁（框と鏡板）、目板（鏡板同士）の取付方法（くぎ／ねじ、本数）は適切か 押縁 留付材：木ねじ（框との留付はくぎでも可）　寸法：Φ2.2mm以上×L20mm以上 留付間隔：高さ方向200mm以下、横方向176mm以下　本数：2本以上／箇所 目板 寸法：Φ2.2mm以上×L20mm以上　留付間隔：高さ方向200mm以下　本数：2本以上／箇所	☐
節や割れがある場合、パテで処理を行ったか	☐	
塗装材の種類は適切か 塗装剤の種類（いずれかー仕様）：なし／合成樹脂調合ペイント／クリヤラッカー／フタル酸樹脂エナメル／合成樹脂エマルジョンペイント／ウレタン樹脂ワニス／オイルステイン／木材保護塗料（べんがら、柿渋など）／なし	☐	
塗装材は塗りすぎていないか 50g/m²以下（有機固形分28g/m²以下） （塗装材の塗布量について、50g/m²以下であることがわかる資料又は写真を提出してください） （べんがら、柿渋、オスモは、塗布量50g/m²以下を満たしていれば、有機固形分28g/m²以内となります）	☐	
縦框には、ネジ締めり錠、カマ錠、気密材が取り付けられているか	☐	
1016以下 175以下 176以下 175以下 横框 縦框 鏡板 中框 縦框 横框 70以上 90以上 図2-1 戸の寸法 1016以下 36以上 1863以下 雇い実 36以上 図2-1 戸の寸法 提出する写真例 写真2-1 雇い実の断面寸法が確認できる写真 提出する写真例 写真2-2 雇い実の施工が確認できる写真		

仕様、留付方法・間隔等を満たしていることを確認した場合に、□にチェック（レ）を入れる		
	チェック内容	チェック
3 加熱発泡材	加熱発泡材は、例示の商品を使用しているか 種類：熱膨張材（商品名：積水化学工業フィブロック（塩化ビニル系）） 寸法：幅10mm以上×厚さ1.6mm以上	☐
	加熱発泡材（上枠）の取付方法（くぎ／ねじ、ピッチ）は適切か 留付材：くぎ（φ1.25mm以上×L19mm以上）／木ねじ（φ3.8mm以上×L25mm以上） 留付間隔：310mm以下 留付本数：2本以上／箇所	☐
	加熱発泡材（戸先、戸下部）の取付方法（ステーブル、ピッチ）は適切か 留付材：ステーブル（内幅12mm以上、足の長さ10mm以上） 留付間隔：200mm以下	☐
	加熱発泡材は途切れずに全長にわたって留付けられているか	☐
	加熱発泡材は所定位置に、所定本数が取り付けられているか 配置本数：上枠2本、戸先2本、戸下部1本 （戸下部に取りつけた加熱発泡材の写真を提出してください。図3-1、写真3-1を参照）	☐
		
	図3-1 加熱発泡材の取り付け位置及び本数	
	 	
	写真3-1 戸下部に取りつけた発泡材が確認できる写真	

仕様、留付方法・間隔等を満たしていることを確認した場合に、□にチェック（レ）を入れる		
	チェック内容	チェック
4 副構成材	下枠レールは、所定の材料を使用しているか ステンレス／鉄 寸法：高さ7.5±1mm以下	☐
	下枠レールの取付方法（くぎ／ねじ、ピッチ）は適切か 留付材：くぎ（φ1.57mm以上×L25mm以上）／木ねじ（φ3.8mm以上×L25mm以上） 留付間隔：330mm以下	☐
	戸がスムーズに開閉できるか	☐
	ネジ締めり錠は、所定の材料を使用しているか 黄銅／ステンレス／鉄	☐
	ネジ締めり錠の取付方法（ねじ本数）は適切か 留付材：木ねじ（φ3.5mm以上×L25mm以上） 留付本数：錠2本以上、受4本以上	☐
	ネジ締めり錠の取付用の穴の寸法は適切か 掘込寸法：錠 高さ120mm以下×幅35mm以下×深さ14.8mm以下、受 高さ45mm以下×幅23mm以下×深さ15mm以下 （掘込深さが所定の寸法以下であることがわかる写真を、錠及び受それぞれ各1枚以上提出してください）	☐
	ネジ締めり錠の閉鎖時に戸同士が動かないか	☐
	カム錠は、所定の材料を使用しているか 黄銅／ステンレス／鉄	☐
	カム錠の取付方法（ねじ本数）は適切か 留付材：木ねじ（φ2.7mm以上×L16mm以上） 留付本数：錠4本以上、受2本以上	☐
	カム錠の取付用の穴の寸法は適切か 掘込寸法：錠 高さ58mm以下×幅30mm以下×深さ18mm以下、受 高さ60mm以下×幅20mm以下×深さ10mm以下 （掘込深さが所定の寸法以下であることがわかる写真を、錠及び受それぞれ各1枚以上提出してください）	☐
	カム錠の閉鎖時に柱戸が動かないか	☐
	カム錠、ネジ締めり錠の閉鎖時に、全体が動かないか	☐
	気密材は、例示の商品を使用しているか EPDM混和物の発泡体（商品名：日東電工EE1010P 粘着テープ付き） 寸法：幅10mm以上×厚さ10mm以上（圧縮前）	☐
	気密材の取付方法（付属粘着テープなどによる取付）は適切か	☐
	閉鎖時に気密材が潰れているか ※ 気密材は、戸と枠の密着性を高めて、火災貫通を防ぐうえで重要です！	☐
	戸車は、所定の材料を使用しているか ステンレス／鉄	☐
	戸車の取付方法（ねじ本数）は適切か 留付材：木ねじ（φ3.3mm以上×L45mm以上）、留付本数：2本以上／個	☐
	戸車の取付用の穴の寸法は適切か 掘込寸法：短辺幅14mm以下×長辺幅68mm以下×深さ28mm以下 （掘込深さが所定の寸法以下であることがわかる写真を1枚以上提出してください）	☐
	レールと戸の隙間が空きすぎていないか（6.5mm程度以下）	☐
	上枠補強材は、所定の材料（ガルバリウム鋼板）、厚み、寸法を使用しているか 厚さ：0.35mm以上、寸法：高さ25mm以上×奥行き27mm以上	☐
	上枠補強材の取付方法（くぎ／ねじ、ピッチ）は適切か 留付材：くぎ（φ1.25mm以上×L19mm以上）／木ねじ（φ3.8mm以上×L25mm以上） 留付間隔：310mm以下 留付本数：2本以上／箇所	☐
	上枠補強材の上にも加熱発泡材が付いているか	☐